

JK課、初めてのサミットで“仲間”と交流

全国でまちづくりに携わる高校生が一堂に集い、「全国高校生まちづくりサミット」が8月27日、サバエ・シティーホテルで開催され、参加者が各地での活動事例を発表しました。「鯖江市役所JK課」が全国でまちづくりをしている高校生たちと交流しようと初めて企画し、長野県飯山高校（飯山市）や豊橋市役所JK広報室など全国から8団体の約50人が参加しました。

飯山高校は唱歌「故郷」の歌詞を地域の課題を盛り込んで考えるプロジェクトを紹介。若者が流出するさびしさが歌詞に込められるなど、地域の課題を深く考える機会になると発表。また、静岡県島田商業（島田市）は、地域の課題解決のため多様な参加者が集い、高校生が主体的に考え行動する「フューチャーセッション」を開催。市の観光ガイドブックの編集に携わったり、オープンデータによる観光アプリケーション開発などの取り組みを発表しました。「本家」鯖江市役所JK課は、3年間の活動成果を振り返り、ごみ拾い企画や図書館の空席が分かるアプリケーション開発を紹介。「何より自分たちが楽しく活動することが一番」と先輩としてアドバイスを送っていました。

サミットは3日間の日程で行われ、まち歩きで市民と交流したり、JK課が企画した夏祭りやスイーツなどで参加者をもてなし、交流を深めていました。



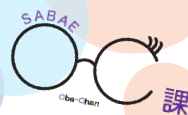
まちづくりの活動事例を発表する高校生



涼しげに浴衣で夏祭りを楽しむ高校生

鯖江市役所JK課

つながる、広がるまちづくり 鯖江から全国発信



OC(おばちゃん)パワーで、楽しくまちづくり

まちづくりに取り組む県内外のおばちゃん(OC)らが集い、「全国OCサミットin鯖江」が9月3日、響陽会館で開催されました。男女共同参画の社会の実現を目指して活動する「夢みらいWe」、市内の女性らでつくる「鯖江市OC課」のメンバーが中心となり実行委員会を設立。この日は、7府県から約220人が参加し、「全国生涯学習まちづくり協会」の福留強理事ら3人を講師に招いての講演やパネルディスカッションで先進事例を学んだり意見交換を行いました。

パネルディスカッションで、OC課の吉村明美代表は「SNSを使った意見交換や何にも縛られない自由な活動を行うなど、これまでにない新しい切り口で活動してきた。これからも団体、会員一人一人の長所を生かして活動していきたい」と意欲を見せました。牧野市長は「鯖江の女性は人権問題やまちづくり、福祉、子育てなど多分野で活躍している。まちづくりは団体戦、つながる力がまちづくりの力」と強調しました。「全日本おばちゃん党」の谷口真由美代表代行は「団体がどうやって横のつながりを作っていくかが課題。団体は違って、当事者間で関係がなくてもどれだけ関わってもらえるかが大事」と述べました。サミット後交流会も開かれ、“おしゃべり”を通してまちづくりの楽しさ、大切さについて語り合うなど、元気に輝く女性の思いが鯖江から発信されました。



パネルディスカッションで意見交換



話に聞き入る参加者